

平成 30 年度 第 2 回環境計画推進パートナーシップ会議 議事録（発言要旨）

- 開催日時：平成 30 年 10 月 16 日（火）10:00～12:00
- 開催場所：西宮市役所 本庁舎 6 階 681 会議室
- 出席委員：小川会長、清水副会長、樋口委員、西明委員、那須委員、柳生委員、野島委員、石川委員、野村委員、田邊委員、遠藤委員、服部委員、花田委員、大谷委員
- オブザーバー：須山オブザーバー、植松オブザーバー、大和オブザーバー
- 事務局：（環境総括室）廣田室長  
（環境事業部）田中（義）部長  
（環境施設部）野田部長  
（公園緑化部）伊藤（泰）部長  
（環境学習都市推進課）岩田課長、吉田係長、八木係長、田中（裕）係長、藤原副主査、鷺尾主事、伊藤（大）主事、松井主事  
（美化企画課）森川課長、加羅係長、吉岡係長  
（施設管理課）小西課長  
（施設整備課）山村課長  
（みどり保全課）岸本課長、山本副主査

開会の挨拶

- 事務局・オブザーバー自己紹介
- 傍聴希望者の確認（傍聴者数：1 人）

1. 審議事項

（1）第 3 次西宮市環境基本計画の素案について

- 事務局から素案の説明および各部会の報告をお願いします。（委員等）
- 事務局説明

- ・第 1 回パートナーシップ会議と第 2 回環境審議会での意見を受けた修正内容
- ・各部会の報告

<各委員からの意見>

- 「行動憲章」の部分では文字の背景に着色があり見やすいが、「計画改定の背景」の部分の白抜き文字は見づらいため、配慮いただきたい。（委員等）
  - 明朝体は細い部分があるため、ゴシック体にすると見やすいのではないかと。（委員等）
  - 写真の色が薄い場合は文字の背景に着色したらよいのではないかと。7 ページの黄色の背景の部分や、8 ページの安全快適の部分は白抜きでは見づらいため、文字の背景に色付けしたらよいのではないかと。（委員等）
- デザイナーと相談し検討する。（事務局）
- 全体的に鮮明でない写真があり、29 ページの低炭素の部分では、資源循環などと比べて絵や写真がないため、固く感じる。43 ページの「情報公開」の記載のところは、空白があるため、年次報告書の写真などを載せてはどうか。また、37 ページの指標について、「延べ参加率」とは何か、わかりに

くいため、説明が必要と思われる。なお、全体的に、写真やイラストを入れて親しみやすいものになっており、パートナーシップ会議をはじめとして参画協働に取り組む西宮市らしい素敵な計画であると思われる。(委員等)

→ 写真については、現在調整中で、画素数が足りないものなど、現段階で仮に使用しているものは今後変えていく予定である。また、「延べ参加率」の説明文については、追記することとする。

(事務局)

● 24 ページの環境衛生協議会のコラムで、健康巡回相談会の写真を取り上げているが、全体は環境の話であるので、構成として少し違うのではないか。(委員等)

→ 違和感があるため、差し替える予定としている。(事務局)

● 全体的に読みたくなるような計画で、行動を変えるきっかけになるような素晴らしい計画である。ただし、37 ページの延べ参加率はわかりにくい。7.5%とはどこからでてきた数字なのか。(委員等)

→ 「西宮市の人口」に対する、「年2回のわがまちクリーン大作戦累計人数」によって算出している。今後人口が減少しても、数値を維持できる参加率で設定しており、近年の実績からみても高い目標としている。(事務局)

● 目指す目標としては、控えめではないか。(委員等)

→ 西宮市は既にごみの減量などに対する市民の意識が比較的高く、参加者数を一定数維持した状態を保つことも困難な時代へと移り変わってきたことから、微増することを目指すという目標とした。(事務局)

● なぜ「延べ参加率」にしているのか。2回の参加者数の合計を使っているという説明を加えてはどうか。(委員等)

● わがまちクリーン大作戦を指標としており、ごみを無くすという活動のことであるが、その他に「まちをきれいにする」というような活動はないのか。(委員等)

→ フラワーフェスティバルやふるさとウォークの参加人数を足し合わせることも検討したが、その合計のうち9割程度がわがまちクリーン大作戦であり、規模が異なっていたため採用しなかった。(事務局)

● 各イベントの参加人数を足し合わせた上で「延べ参加率」として、目標数値を大きくしてはどうか。7.5%が目標だと、不参加の人口の多さが目立ってしまい、また、参加しなくてもよいと思われてしまうのではないか。(委員等)

→ 前回の会議で、3つのイベントの合計を延べ参加率として指標の設定をしていたところ、わかりにくいというご意見があり、わがまちクリーン大作戦だけに絞ってはどうかという議論があったため、今回それを受けてこちらの指標とさせていただいている。(事務局)

● わがまちクリーン大作戦だけで指標を立てるほうがよい。また、参加者数を増やすことは難しいと感じるため、延べ参加率とするのが妥当だと思う。(委員等)

● 参加者を増やそうとするなら、延べ参加率を上げてはどうか。(委員等)

● 10年の期間があるため、わがまちクリーン大作戦という名前だけでなく、学校などを通じて地域で取り組む美化の活動に統合できる可能性もある。(委員等)

● 環境衛生協議会での清掃活動などの取り組みにおいても、メンバー主体ではなく、学校や地域を巻き込んで取り組んでいる。(委員等)

- わがまちクリーン大作戦だけに限定せず、「わがまち美化活動」として、他の活動もここに参入することを想定して10%という目標も考えられる。(委員等)
- わがまちクリーン大作戦の参加者を増やすだけでなく、様々な形でまちをきれいにする活動に参加する人を増やすのが目的である。10%を達成するには、学校を巻き込まなければ難しいとしても、この目標設定が、学校に働きかける際の理由付けとして利用できると思う。シニアが多いため、学校を巻き込み若い世代を増やすことが大事。そのため、目標値を高くし、定義を広くするとよいのではないか。(委員等)
- 計画期間は10年であり、途中での切り替えも可能であるため、活動を広げていくという気持ちをこめ、事業を絞らず幅を持たせ、目標値も例えば2桁の10%と高く設定してもよいのではないか。(委員等)
- わがまちクリーン大作戦は、身近な活動であるが、学校を勝手に巻き込んでよいのかという問題もある。また、根拠なく目標数値を設定するのはよくない。ただ、今後、行政が行う事業に限らず、美化活動として他のイベントや個人の活動も加えられるとおさまりが良いのではないか。今津灯台や御前浜などでの清掃活動や、エココミの活動など細かいそれぞれの活動があるが、市民の様々な活動を整理して2桁の希望的目標に設定すると意識も高まるのではないか。(委員等)
- 学校からデータをもらうのは難しいがエココミからもらうことはできるのではないか。(委員等)
- それぞれの団体で切り口は違っていても、まちをきれいにするという同じ意識で取り組んでいるため、それを含めて延べ参加率で目標を設定したらよいのではないか。(委員等)
- 学校では、地域と一緒に活動することを重視し、平成32年度からの学習指導要領でもその傾向は強くなっていく。こどもが地域のために何ができるのかということが重視される。学校周辺や公園を掃除することもあるが、日程を決めて行う行事ではない。(委員等)
- こどもは学校でなくても地域で活動しており、事業者も入って地域でコミュニティとして活動していくという方向性で考えればよいと思われる。(委員等)
- 幅を持たせた名称に変えて、目標値は10%として、10年後に向けて広がりを持たせる意欲を持った目標とするのはどうか。(委員等)
- 平均参加率と延べ参加率の違いがわかりにくい。(委員等)
- 参考として載せている数値が紛らわしいため、その説明を削除し、代わりにわがまち美化活動の対象をどのようなものにしていくかといった説明を加えてはどうか。(委員等)
- 集計が取れるかどうか大きなポイントとなるため、体制を検討したうえで回答する。(事務局)
- 21ページにSDGsの記載があるが、上半分はSDGs、下半分は環境目標について書かれている。SDGsと環境目標の、関連を表す言葉を入れたほうが良い。(委員等)
- 各対象事業とSDGsの目標との紐づけはできるようにする必要がある。掲載する以上これらの目標に取り組んでいくという行政としての意識が必要。環境の計画の中で扱える主たる部分について、記載してほしい。(委員等)
- 39ページのコラムに「自然にある化学物質であれば安全というわけではなく、フグの毒や毒キノコなど、自然のものでも人間に悪影響をもたらすものもあり」とあるが、フグの毒は化学物質なのか。(委員等)
- 化学物質である。ここで毒という言葉が重なると文章が重く感じるが、個人によって影響の現れ方

- は異なるため、毒という言葉は使わずフグやキノコなど～という表現にしてはどうか。(委員等)
- この文章は経産省のウェブサイトから引用しているため、直すことはできない。(事務局)
  - なぜこのコラムをここに掲載しているのか。自然にも毒のある化学物質があるため気を付けるためということか。(委員等)
  - 安全快適につながる内容であるため、身近な化学物質について紹介するコラムを掲載している。(事務局)
  - 人工的なものであれば、マイクロプラスチックの問題でレジ袋の使用を削減しようという動きがあるが、自然の化学物質と上手に付き合えようというのは、実際にはどうしたらよいのか。市民はどう付き合えばよいのか、コラムの意図がわかりにくい。人間が作り出したものに対して人間に責任があるというならわかるが、人間が作り出したものではないものと上手に付き合えようと言われるとどうしたらよいのかわからない。(委員等)
  - 言葉が本質のすりかえになると趣旨がずれてしまうのではないか。検討していただき、あえてこのコラムを掲載する必要がなければほかのものを代わりに掲載してはどうか。(小川会長)
  - SDG s の海の豊かさにもつながるため、マイクロプラスチック関係の話を掲載したほうがよいのではないか。(委員等)
  - 個別計画のほうでマイクロプラスチックについて掲載するため、重複してしまうと考えている。(事務局)
  - 対外的に誤解を生む可能性があるため、この引用を掲載するかしないかを検討してほしい。(委員等)
  - 23 ページのエコカードを、直近の 2018 年度分に変えたほうが良い。(委員等)
  - エコカードのコラムで、審議会の意見を受けて物品や資金がもらえるといった記載を入れているが、この取り組みは、子どもたちがアースレンジャーに認定され、地球の守り手になれるということがモチベーションとなっている。物をもらうために取り組んでいるといった誤解を生む可能性があるため表現を変えてほしい。(委員等)
  - 35 ページの③で、情報共有のためにできることとしてホームページでの情報発信が記載されているが、ホームページの作成だけではなく、調査体制の仕組みづくりとしてももう少し踏み込んだ記載ができるとよい。(委員等)
  - 35 ページ③ 2 行目の「そのため」のあとに、実際に行っている市民参加である「市民自然調査」などを追記してはどうか。また、①のところで、都市近郊での里山の整備といったような具体的な内容が本文からはわかりにくいため、それが伝わる表現にしてはどうか。この提案については、次の生物多様性の部会で議論していただきたい。全体のデザインについても、ページの右端に、色分けで数字だけ書いてあり、章ごとの数字を記載しているものなのかわかりづらいため、第〇〇章と書いたほうがわかりやすい。なお、21 ページのコラムについて、「どれが一番大切な？」といった設問になっているが、答えがはっきり記載されていない。設問の意味が伝わらないため、どれも大切であるという答えをはっきり書いたほうが良い。(委員等)
  - 環境目標と開発目標について述べているため、その関連性を述べたらよいのではないか。(委員等)
  - コラムの上部には、SDG s の内容が記載されているが、コラムは西宮の環境についての内容となっており、わかりづらいため、コラムで SDG s と西宮環境との繋がりを述べて整理するとよい。

(委員等)

- SDGs との関連というのはざっくりとした内容であるため、関連しているということさえ述べればよい。SDGs との関連を意識しているということが伝わればよい。(委員等)
- 20 ページにコラムを移し、21 ページに ESD と SDGs の内容をまとめれば、環境目標についての内容と切り離せるため、誤解がなくなるのではないか。(委員等)

## (2) 環境まちづくりフォーラムについて

- 環境まちづくりフォーラムについて、事務局より説明をお願いします。(委員等)
- 環境まちづくりフォーラムについての概要説明(事務局)  
＜各委員からの意見＞
- 「地域の枠を超えて」とあるが、教育や環境などは地域の中で展開されるものであるため、意味がわかりにくい。(委員等)
- 地域を超えてともに共通課題を解決していくという意味である。(事務局)
- 行動憲章の4に「人と自然、人と人とが共生する」とあるため、テーマの文言では持続可能な「共生」社会という言葉を入れたほうが良いのではないか。(委員等)
- 第1部の環境目標の現状説明のところは、各部会長にそれぞれの環境目標の関連付けをしながら話していただきたい。また、パネルディスカッションは、地域の人の活動のきっかけとなるため、PS 会議の各団体からそれぞれの視点で話していただきたい。  
また、会場が大きいため、中核的な方に来ていただきたい。人数はプレラやフレンテだと東館の倍以上は人数を集める必要がある。計画を対外的に知ってもらうチャンスであるため、計画を知る方にポイントを話していただき、おおまかな説明は事務局からしていただき、第2部は地域主体で行う。こういった構成ですすめていただきたい。(委員等)

## 2. 報告事項

エココミュニティ会議の活動状況報告  
事務局より説明

## 3. 連絡事項

予定としては、10月中旬に完成させ、11月中旬に所管事務報告で議会に諮り、12月上旬から1月中旬にかけてパブリックコメントを実施する。次回はパブリックコメントの結果報告とまちづくりフォーラムについての報告を予定しており、2月下旬から3月上旬に開催予定。

以上